

モンゴルカレッジ Монгол Судлалын Академи

参加無料

1日限定

日程：平成28年5月1日(日) 会場：練馬区立光が丘図書館内2階 視聴覚室



小野英夫
Hideo ONO

グローバル・ビジネスソリューションズ株式会社取締役社長
1979年一橋大学社会学部卒業。三菱商事(株)入社。2010/4~2013/3初代
三菱商事ウランバートル駐在事務所長(資源開発事業、新空港円借款案件、
ファンド事業を掌管) 2013/5~2015/5シンガポール支店金属部長兼新規
事業担当部長。2015/9三菱商事定年退職後、現会社起業。
2016/1パシフィックコンサルタンツ(株)顧問就任。

モンゴル国の概略と地政学的な特徴を歴史も踏まえて理解した上で、これからの日本とモンゴルの新たな協力関係について商社マンとしてモンゴルに3年間駐在した経験を基に皆さんとともに一緒に考えてみたい。これからの主役は両国の若い人たちの柔軟な発想と行動力にかかっている。モンゴルに興味がある若者は来れ!

明治大学商学部教授
専門は気候学、環境科学。理学博士。
日本女子大学卒業。筑波大学大学院地球科学研究科中退。1996年より明治大学勤務。2003年4月から2年間モンゴル気象水文科学研究所研究員。モンゴルでソド(寒 雪害)や馬乳酒の調査を行なっている。

モンゴル遊牧民の乳製品の中でも代表的な馬乳酒は、これさえあれば食事もいらぬ、と言い切る人もいほど栄養価が高く効能も多いとされ、ナーダムなどの儀礼にも欠かせないが、その伝統的製法は急速に廃れつつある。これの保存および遊牧民の「おいしい馬乳酒はどう作るか?」の問いに答えようと、名産地ボルガンにてウマ・気象・草・土・水などの観測や馬乳酒分析、伝統文化調査等を行なう日・モ共同プロジェクトの取り組みを紹介する。



森永由紀
Yuki MORINAGA

滋賀県立大学人間文化学部准教授
文化人類学・モンゴル地域研究専攻。博士(文学)。1969年愛媛県生まれ。モンゴルのシャーマニズムをナショナリズムやエスニシティとの関連から研究してきた。その他の関心領域としては、ポピュラー音楽、現代におけるチングスハーンを巡る言説や表象、鉱山開発と社会変容など。2013年度日本学術振興会賞、地域研究コンソーシアム賞。2014年度大同生命地域研究奨励賞をそれぞれ受賞。主な著書に“Чингис хаан хэний баатар вэ? Монгол, Япон, Хятад, Евро-Америк, Оросын харьцуулалтаас”。UB: Admon (2014)、『増殖するシャーマン：モンゴル・プリヤートのシャーマニズムとエスニシティ』春風社(2011年)。

現在モンゴルでは「まるで感染病のようだ」と形容されるほど、シャーマン(霊媒師)の数が劇的に増加している。驚くべきことに、一般人はおろか俳優や歌手といった、有名人から国会議員のような政治家までシャーマンになっている。彼らがこんなにもシャーマニズムに傾倒する理由は何なのだろうか。本講演では、この「感染するシャーマン現象」が引き起こされる理由を、文化的背景や現地社会の状況から読み解いていきたい。



島村一平
Ippei SHIMAMURA

横浜ユーラシア文化館学芸員

1991年上智大学大学院文学研究科博士前期課程修了。大学院修了後は、博物館などでアルバイトをしながら、シベリアの草原地帯やモンゴルの発掘調査に参加。2002年より現職。企画展やイベントを通じて草原の遊牧文化の紹介を行っている。

ユーラシアの草原地帯には、馬に乗って遊牧生活を送る人々の残した遺跡が見られる。その最初期のものは、今から2800年ほど前のものと考えられている。モンゴルといえば、アジアからヨーロッパにまたがる版図を持つ大モンゴル帝国が有名だが、そのはるか以前から、遊牧文化が広くユーラシアで栄えておりモンゴル高原もその一角であることを、遊牧民の遺跡からお話する。



畠山禎
Tei HATAKEYAMA

問い合わせ

mongolcollege@harumatsuri.net

バイラルサイハン・ムンフオド
ジャグマル・アウラントヤル
出口英昭



(注) 開催場所である練馬区立光が丘図書館は、本モンゴルカレッジと何ら関係がありませんので、図書館には一切、問い合わせをしないようよろしくお願いいたします。御講演者の都合によりプログラムが変更となる場合がありますので、御了承ください。